

02-015

学童期血友病児に対する母親の口腔保健行動と課題

青野 広子¹⁾、松尾 陽子²⁾、大園 秀一²⁾、中村 加奈子¹⁾、飯野 英親¹⁾福岡看護大学 看護学部 健康支援看護部門¹⁾、
久留米大学 小児科学教室²⁾

【目的】血友病児は、外科処置後に後出血を起こしやすく、乳歯から永久歯への交換期に止血し難い出血を認めることがあるが、血友病児の口腔内管理方法の実態に関する報告は少ない。本研究は、う蝕や外傷などの口腔疾患をきたしやすい学童期血友病児の母親に焦点を当て、母親の口腔保健行動の体験をもとに学童期血友病児の口腔保健行動の現状と課題を明らかにすることを目的とする。

【方法】研究デザイン：質的帰納的研究。研究対象者：13～18歳の血友病AまたはBの子どもを養育する母親5名。データ収集方法：半構造化インタビューを行い、学童期の口腔内環境と口腔保健行動に関連する体験を振り返って想起した語りを収集した。分析方法：母親のインタビュー回答内容から逐語録を作成し、コード化してサブカテゴリーを抽出し、さらに、サブカテゴリーを意味内容の共通性により集約してカテゴリーを生成した。倫理的配慮：対象者に対して文書を用いて説明し、同意を得た。本研究は、所属機関の倫理委員会の承認（414号）を得て行った。

【結果】5名の学童期の血友病児は、う蝕などの口腔疾患と歯の生えかわりや運動性の口腔外傷に伴う出血を経験していた。母親は、子の口腔内出血に対して小児科主治医に電話相談したり、自信がないまま凝固因子を補充して様子を見るなど、手探り状態で自宅にて止血を試みていた。4名は、出血の遷延や血腫を形成した時に自責の念を抱き、口腔内出血に恐怖を感じていた。また、3名の母親は、子の口腔内への関心は高かったが、口腔ケアや口腔ケア指導に至らなかった。5名の母親は、子どもの口腔保健行動の体験から、血友病だからこその口腔ケアや歯科処置後の注意点を知らないという思いをもっていた。そして、子の成長に伴って口腔内環境の知識や成人歯科へのトランジションに関する情報を得たいと考えていた。

【考察】本研究における5名の血友病児は、口腔内の発達、および、外傷に伴う口腔内出血を起こす傾向があった。母親は、血友病の疾患特性を踏まえた口腔ケア、歯科受診の方法と意義、そして、止血方法などの情報が不足していたことから、口腔ケアや口腔内出血の対応に戸惑った経験を有していた。口腔ケアの一端を親が担う学童期血友病児の口腔内出血のリスクを減少させるためには、一般的な口腔衛生管理と止血管理を包括した知識を合せて、親子の状況に応じて段階的に提供が必要があると考えられる。